

資料 2	専門家会合（第 4 回）
	平成 2 6 年 1 1 月 1 0 日

「失語症の人の生活のしづらさに関する調査」

調査結果(抜粋)

「失語症の人の生活のしづらさに関する調査」

結果報告書

NPO法人全国失語症友の会連合会

「失語症の人の生活のしづらさに関する調査」結果報告書作成ワーキンググループ

委員長：NPO法人全国失語症友の会連合会理事長 八島三男

委員：全国失語症友の会連合会理事 園田尚美

都立府中療育センター 山本弘子

広島県立保健福祉大学名誉教授 綿森淑子

川崎医療福祉大学教授 種村純

神戸大学大学院保健学研究科客員教授 関啓子

医療法人社団輝生会本部 半田理恵子

介護老人保健施設ピースプラザ 上杉由美

調布市総合福祉センター 中村やす

Ⅱ. 調査概要

1. 調査目的

失語症の方とそのご家族へのアンケート調査を通じて、失語症の方が日常生活を送る上で困難を感じる活動や場面はどのようなことか、障害のある当事者として、今後どのようなことを行いたいと考えているか、失語症の方のご家族は生活上どのような困難とストレスを感じているか、今後必要と考える制度上の援助はどのようなものであるか、などを明らかにすることを目的とした。

本調査の結果をまとめ、失語症者とその家族がより良い生活を送るための具体的要望を厚生労働省、国、行政機関などに行なうことを予定としている。

2. 対象者

全国の失語症の方及びご家族。各地の失語症友の会会員に加えて、都道府県の言語聴覚士会所属の ST などを通じて、現在、医療機関・介護保険施設で言語リハビリ継続中の失語症の方々とご家族に協力を依頼した。

失語症の方ご自身で回答をすることに困難さが予想される方に関しては、ご家族や ST に補助を依頼した。

3. 調査内容

日常生活上で困難を感じておられる問題について、年齢や性別、家族に関する情報や、身体障害者手帳取得状況、生活上そのような点に不便を感じるか、などに関してご本人用とご家族用、2種類のアンケートシートを作成した。

生活上不便と感じる点については、3択で回答頂き、自由記載欄で具体的な状況を書いていただいた。

4. 調査方法

期間：2012年1月～3月

方法：アンケート用紙を郵送、返送方式

地域による偏りがないように、全国47都道府県に発送した。

結果の分析および報告書作成に関しては、失語症当事者（全国失語症友の会連合会理事長八島三男）を委員長とし、連合会理事・家族（園田尚美）、言語聴覚士6名（山本弘子、綿森淑子、種村純、関啓子、半田理恵子、中村やす、上杉由美、）からなるワーキンググループにて行うこととした。結果及び考察に関して失語症本人及び家族の意見を反映させるため、オブザーバーグループの失語症本人及び家族、支援ST（森本セツ子、井上正徳、鈴木弘二、平林武史、堀本一治、石崎さとみ、中内一暢、友井規幸、藤原みどり、三池信一、）も結成した。（敬称略）

5.アンケート返送状況

発送数 905 通

- 回収：本人 486 通 回収率 53.7%
- 家族：432 通 回収率 47.7%
- 46 都道府県より回収された（佐賀県が、未回収であった）

6.アンケート項目

1) 失語症のご本人用

失語症の方とご家族の日常生活上の困難に関する調査			
失語のあるご本人についてご記入をお願いします。可能であれば失語のある御本人がご記入ください。場合によっては御本人の意思を伺って、ご家族や支援者の方が記入されても構いません。			
ご本人の現在の年齢	歳		
ご本人の発症年齢	歳		
失語症の話す側面	時々ことばに詰まる程度	ある程度会話ができる	会話が全く出来ない(ほとんどできない)
失語症の聞いて理解する側面	話を聞いてほとんど理解できる	ある程度理解できる	全く理解できない(ほとんどできない)
性別	男性	女性	
家族構成	独居	夫婦のみ	その他親族と同居
身体障害手帳、介護保険などの福祉サービスを受けていますか	受けている	サービスがあることは知っているが受けていない	受けていない/軽度で対象とならない
身体障害者手帳の等級	言語障害のもの(有・無)	3 級	4級
	言語障害以外	種 級	
	合算	種 級	
日常主に何をしておこなっていますか	仕事・福祉作業所等・デイサービス等・家にいるその他()		

1	自分の名前を伝えることができますか。	口で伝えることができる	書いて伝えることができる	難しい
2	自分の年齢を言うことができますか。	口で伝えることができる	書いて伝えることができる	難しい
3	自分の住所を言うことができますか。	口で伝えることができる	書いて伝えることができる	難しい
4	電話が使えますか	電話で用がたせる	電話を受けて理解することは出来る	電話は使えない
4*1	自分用の携帯電話を持っていますか。	持っている	簡単なものキッズ携帯持っている。等	持っていない
4*1.1	携帯電話を使って出来ることに丸をつけてください。	電話を掛ける/電話を受ける/メール/インターネット検索/その他()		難しい
5	失語症があるので、会話が難しいことを相手に伝えることはできますか	口で伝えることができる	書いて伝えることができる	難しい
6	言いたいことが伝わらない時、伝えようと努力しますか	ことば以外の手段も利用して伝える	相手が手伝ってくれば伝えられる	伝えるのをあきらめてしまう
7	自分のしてほしいこと、疑問に思うこと等を、どのように伝えますか	言葉で伝える	身振り手振り等を交えて伝える	伝えることは難しい
8	家族の簡単な質問に、答えられますか	言葉で答える	「はい」「いいえ」や身振り、表情で、答える	難しい
9	家族からの簡単な頼みごとを言われたとおりにできますか	出来る	ときどき出来ることがある	難しい
9*1	他人に言われた頼みごとがわからなかったときどうしますか	繰り返し聞く、あるいは書いて伝えてもらおうとする	繰り返し聞くことが時々ある	わからなくても聞き返さない

社会生活に関することです。当てはまるものに○をつけて下さい。				
10	挨拶は適切に出来ますか。(例・朝:おはよう、昼:こんにちは、夜:おやすみなさい、外出時:行ってきます、帰宅時:ただいま等々)	適切に出来る	ときどき間違える	黙礼ですませる
14	交通信号、道路標識、トイレ、エレベーター、受け付け、公衆電話、非常口、地下鉄、タクシー等々の表示がわかりますが	間違えない	ときどき間違える	難しい
15	時計を見て生活時間を自分で管理できますか	できる	時々忘れる	難しい
16	約束の時間を一人で守ることが出来ますか	正しく行動できる	家族が教える必要がある	難しい
電子機器についてです。当てはまるものに○をつけて下さい。				
17	失語症になる前、パソコンを使っていましたか	仕事などでいつも使っていた	時々使っていた	パソコン経験なし
17*1	病後のパソコン利用について教えてください。ご自分がパソコンを使って出来ることに丸をつけてください。	ワード/ エクセル/メール/インターネット検索/その他		使えなくなった
外出についてです。当てはまるものに○をつけて下さい。				
20	一人での外出時にガイドヘルパー等(家族以外)の支援を受けていますか	受けている	過去に受けたが今は受けていない	全く受けていない
20*1	ガイドヘルパー等のサービスについて	あったほうが良い	特に必要を感じない	不要
21	発症前に行っていた所に一人で行くことが出来ますか。	出来る	地図やメモがあればできる	難しい
22	初めての場所に一人で行くことが出来ますか。	出来る	地図やメモがあればできる	難しい
23	電車やバス等の公共機関を使って一人で出かけることが出来ますか。出来るものに丸をして下さい。	切符を買って利用できる	鉄道ICカードなどがあればできる	無い
24	駅などの放送が分からないときどうしていますか	周りの人に聞く	周りの様子で判断する	何もしない
25	一人で市(区)役所や警察署等に行き、用事を済ますことが出来ますか。	出来る	簡単なことならできる	難しい
26	一人で銀行等の金融機関に行き、用事を済ますことが出来ますか。	出来る	ATMだけできる	難しい
27	一人での買い物や飲食店での注文は、どの程度出来ますか。	メモやメニューがなくともできる	メモやメニューがあればできる	難しい
28	お釣りの計算が出来ますか。	出来る	自信がないので大きいお札を出しておつりをもらう	難しい
29	一人で自動販売機で飲み物・切符・煙草などを買うことが出来ますか。	出来る	助言すればできる	難しい
その他:当てはまるものに○をつけて下さい。				
30	病後家族の中での役割は変わりましたか	変わっていない	以前のように意見を主張できない	自分の役割を他の家族に任せるようになった
30*1	本人あるいは家族にとって重要な決断をするのは誰ですか。	本人	他の家族が手伝って本人が決断する	他の家族が代わって決断をする

31	新聞や、市(区)報などを読んでいますか。	読んでいる	見出しだけ見ている	難しい
32	一人で留守番をすることが出来ますか。	できる(電話の応対も含め)	一人で家で過ごすことはできる	難しい
33	一人で診察を受けに病院に行けますか。	出来る	家族がメモを書いてく	難しい
34	医師や薬剤師の説明がわからない時どうしますか。	質問をする	顔くがわかっているかどうかわからない	何もしない
35	一人で指示通り薬を飲むことが出来ますか。	一人で必要な薬を判断して飲むことができる	お薬カレンダー等に整理してあればできる	難しい
36	病前に使ってなかった電気製品等の操作を理解し、使うことが出来ますか。	一人でマニュアルを見て使うことができる	家族が教えれば学習できる	使えない/使おうとしない
37	外出先で分からないことがあった時、他人(交番等も含む)に尋ねることが出来ますか。	ことばで出来る	ジェスチャーなどをまじえて尋ねる	難しい
38	テレビやラジオのニュース・ドラマ・天気予報の内容を理解することが出来ますか。	筋を追うことができる	理解の程度はわからないがそれらしく反応する	難しい/見ようとならない
39	テレビの番組欄を読んで、チャンネルを変えることが出来ますか。	出来る	出来るときもある	難しい
40	葉書や手紙を読んだり、自分で書いて出したりすることが出来ますか。出来ることに丸をつけて下さい。	読むことが出来る	書いて出すことが出来る	どちらも、一人では難しい
41	病前と比べると現在の日常生活は	特に不自由ではない	少し生活しづらい	とても生活しづらい
42	今、失語症の御本人が一番やりたいこと、挑戦してみたいことはなんですか。ご本人に伺って、具体的に記入してください。			
42	その他、生活する上で、必要なことの中でご本人一人で行うことがむずかしいことがありましたらあげてください(いくつでも結構です)			

2) 失語症の方のご家族用

失語症の方とご家族の日常生活上の困難に関する調査	
あなた自身のことについてお答え下さい。	
現在の年齢	歳
性別	男性 / 女性
家族構成	失語症の人と 2 人暮らし/子あるいは親と同居
扶養家族の有無	有 / 無
失語のある人から見たあなたの立場	妻 / 夫 / 親 / 子供 / その他 ()
日常生活に関することです。当てはまるところに○をつけて下さい。	
1	発症前、日常生活を経済的に支える方はどなたでしたか 失語症の人 / 配偶者 / 親 / 子供 / その他
2	発症後、日常生活を経済的に支える方はどなたですか 失語症の人 / 配偶者 / 子ども / 親 / 預金の取り崩し / その他
3	生活を支えるにあたって、相談する人は身近に居ますか？(金銭的援助も含む) いる / いない
4	発症後、経済的にどの程度困っていますか 非常に困っている / 困っている / あまり影響はない
5	経済的に困っている方に/何に一番困っていますか 日常生活一般/家のローン/子どもの学費/その他
6	その他、困っていることがあれば、お書きください
ご家族としてはご本人のどのような状態にストレスを感じますか ○を付けてください。	
7	① ことばの症状 意思の疎通がない・本人の思いを推測するのが大変・本人の体調を推測するのが大変・本人が電話等を使えないのが大変 その他 ()

② 感情や認知の症状	怒りっぽい・暴力をふるう・意見を聞き入れない・行動を理解できない・その他（
③ 失語以外の身体症状	行動が遅くてイライラする・リハビリの場所が無い・食事の管理・その他（
④ 家庭運営	子供の教育・財産管理・自分の体調や健康が不安・その他（
⑤ 生活面	友人との付き合いが減った・疲れて何もやる気が起きない・その他（
⑥その他・あれば具体的に、ご自由にお書きください	

ご家族としては、失語症の人に対してどのような支援があったら良いと思われますか。

8

生活保障としては、どのような支援を必要としていますか。(例・障害者年金認定基準の改定・障害者手帳認定基準の改定・リハビリ施設がもっとほしい・会話と介護の支援者がほしい/等々、自由にご記入ください。

9

失語のあるご家族がいることで、どのような悩み事がありますか。 日常的なもの、精神的なもの、経済的なもの/等々、自由にお書き下さい。

10

Ⅲ. 調査結果

1. 失語症本人対象アンケート結果

<本人の状況>

1) 「本人の現在の年齢」

失語症の本人の現在の年齢は 60 歳以～80 歳未満が約 7 割 325 人を占めた。20 歳以上、60 歳未満で現在就労年齢にある人も 25%109 人あった。

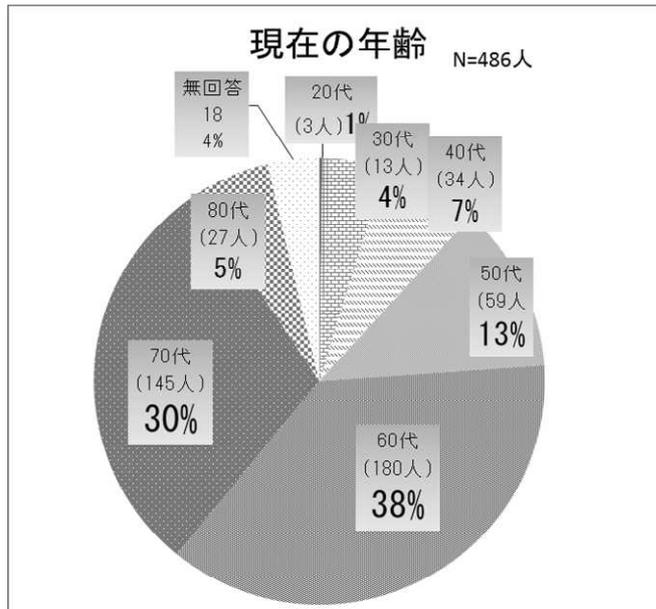


図 1.本人の現在の年齢

2) 「本人の発症年齢」

3) 「発症後の経過年数」

失語症本人の発症年齢は、50 歳代が約 4 割と最多で、60 歳代が 24%、40 歳代が 15%であった。20 歳代～50 歳代の働きざかりに発症した人が 304 人で 63%を占めた。発症からの経過年数は約半数の 232 人が発症から 7 年以上経過していた。

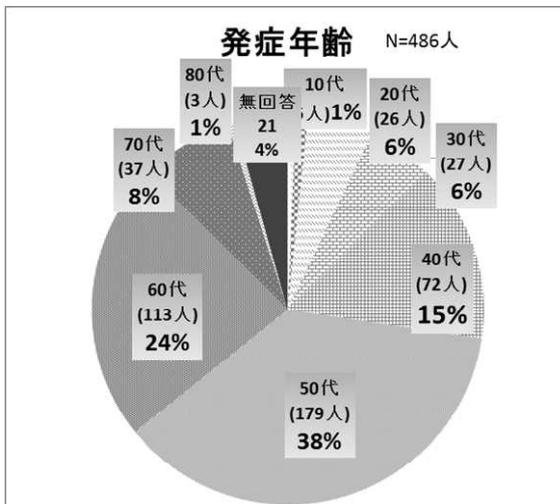


図 2.発症年齢

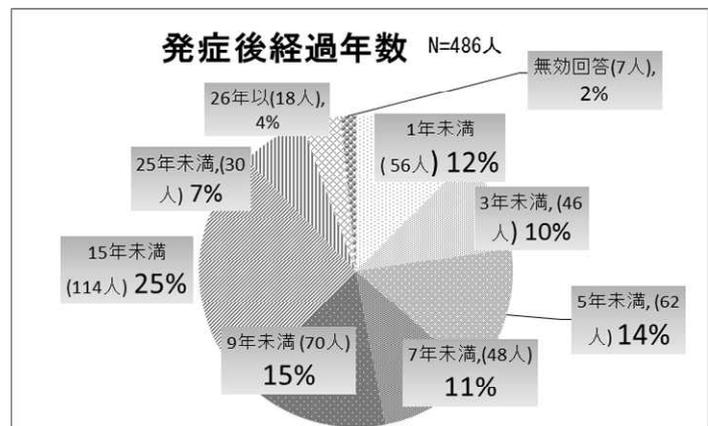


図.3 発症後経過年数

<言語障害の状況>

6) 失語症の「聞いて理解する側面」

「ある程度理解できる」人が298人65%と最も多く、話を聞いて理解することが「全く（ほとんど）理解できない」と回答した人は27人6%にとどまった。

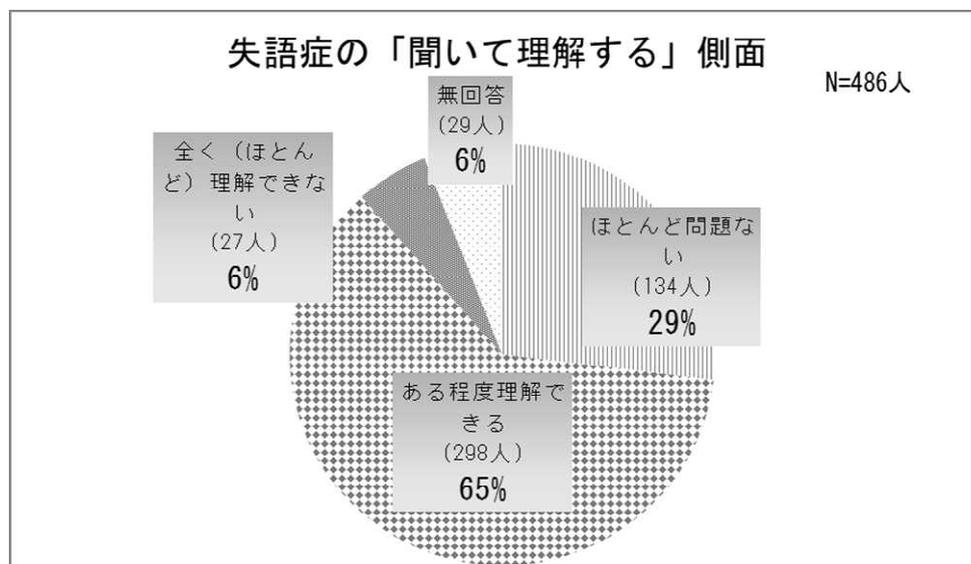


図 6.失語症の「聞いて理解する」側面 9

7) 失語症の「話す側面」

「ある程度会話ができる」人は約4割(188人)で、「会話が全く（ほとんど）できない」人が120人25%あった。「聞いて理解する側面」に比べて、「話す側面」の困難が大きいことが明らかになった。

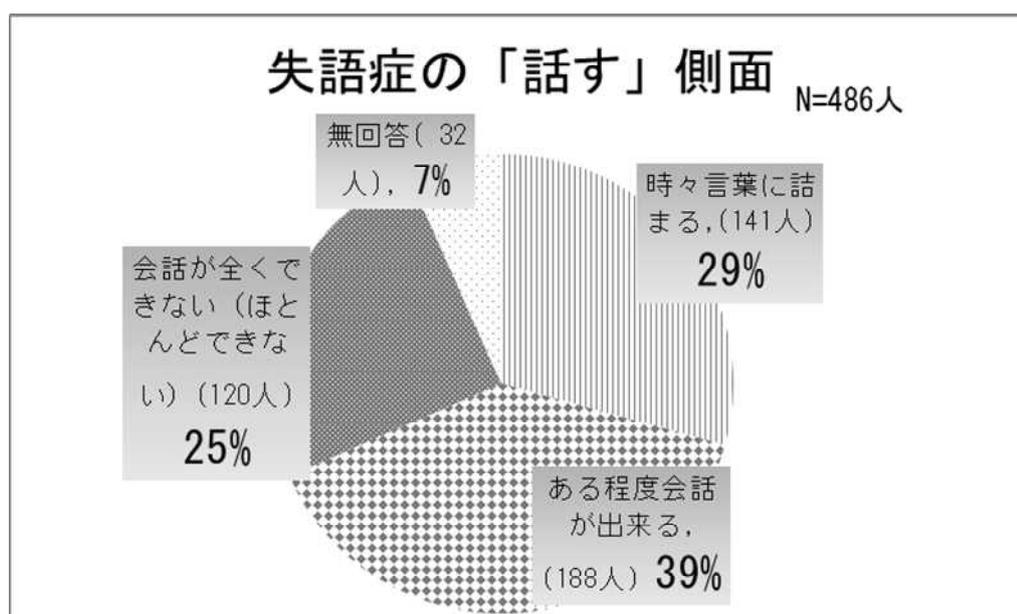


図 7.失語症の「話す」側面

<身体障害者手帳について>

8) 「身体障害者手帳、介護保険などのサービスを受けていますか」

身体障害者手帳や介護保険などのサービスを受けている方は7割程度あったが、

「受けていない」という回答が約3割あった。失語症で身体障害者手帳を申請できることが十分周知されていないことやデイサービスなど介護保険サービスが失語症者が利用しやすい年齢や障害構成になっていないこと、また要介護認定審査項目には失語症による問題を反映できる項目が少ないことなどが「受けていない」ことの要因として背景にあるのではないかと考えられた。

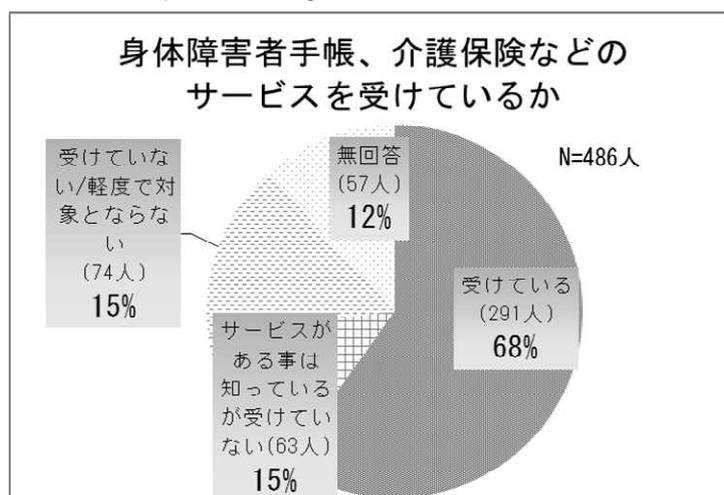


図 8.身体障害者手帳、介護保険などのサービスを受けているか

9) 「身体障害者手帳の等級」「言語障害のもの」

「失語症の話す側面」について「会話が全くできない」と回答した 120 人のうち、失語症で身体障害者手帳を取得しているという回答は 3 級 32 人 27%、4 級 15 人 13%、計 47 人 39%と非常に少なかった。無回答も多かったが、身体障害で 1,2 級に該当するので敢えて言語障害で手帳を申請しなかったという可能性も考えられる。また「失語症で身体障害者手帳が取れるとは知らなかった」という意見もあり、失語症で身体障害者手帳が取得できるという情報が十分に伝わっていない可能性も考えられた。

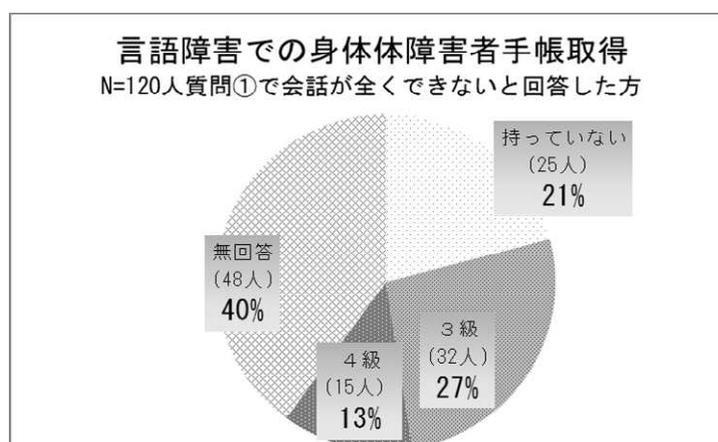


図 9.言語障害での身体障害者手帳取得

10) 「言語障害以外での身体障害者手帳取得」

言語障害以外での身体障害者手帳取得は、1種が114人、2種が32人であった。(2種の方は介護者が交通運賃の割引対象とならない。) 等級は、1級は約4割92人、2級が4割弱81人、1、2級を合わせて約8割であった。

言語障害とその他の障害の合算によって等級が繰り上がった人は13名であった。

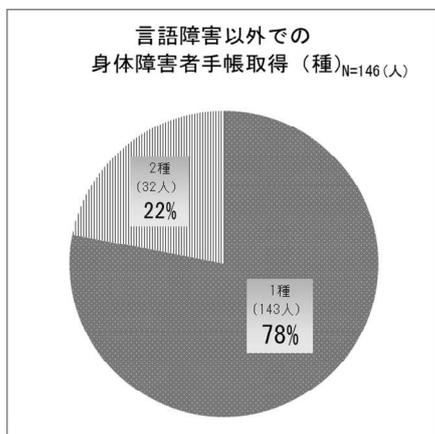


図 10.言語障害以外での身体障害者手帳(種)

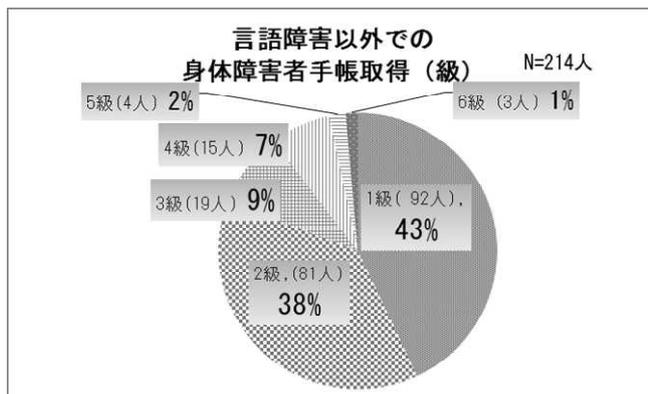


図.11 言語障害以外での身体障害者手帳(級)

<日常生活の中でのコミュニケーションについて>

11) 「日常主に何をしておこなっていますか」

現在の日常生活についての設問で、40歳未満の人は約4割の人が、60歳未満の人は約1割が仕事をしていました。60歳未満の就労年齢にある人116人中、仕事についていたのは26人22%に過ぎず、極めて多くの人とその社会的役割を失っていることが明らかになった。60歳以上の人は半数以上が「家にいる」と回答した。また、約3割の方が「デイサービスに行く」と回答した。

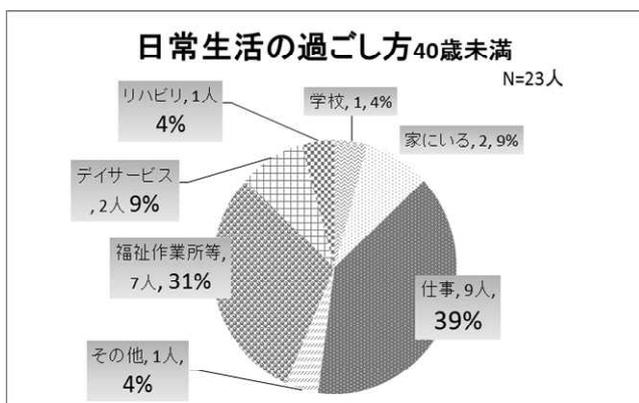


図. 12a 日中何をしておこなっているか(40歳未満)

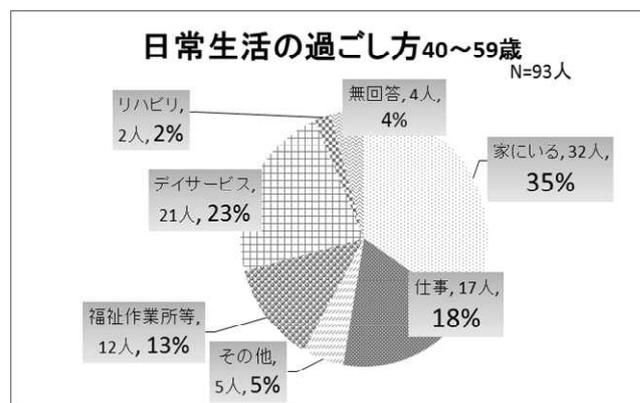


図. 12b 日中何をしておこなっているか(40歳~60歳)

<社会生活について>

20) 「挨拶が適切にできますか (例：朝・おはよう、帰宅時・ただいま など)」

「適切にできる」と回答した人は約半数 229 人で、「時々間違える」という回答が 3割 146 人、「挨拶せず黙礼ですませる」人が 73 人 15%あった。

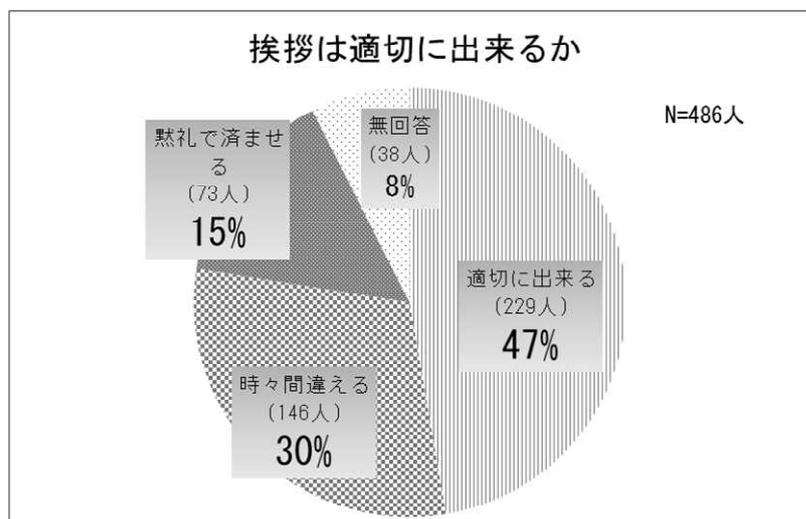


図.25 挨拶は適切に出来るか

21) 「交通信号、道路標識、トイレ、エレベーター、受付、公衆電話、非常口、地下鉄、バス、タクシーなどの表示がわかりますか」

「間違えない」という回答が 54%264 人で、「時々間違える」が、121 人 25%あり、非言語的な視覚表示の理解は比較的良好であった。

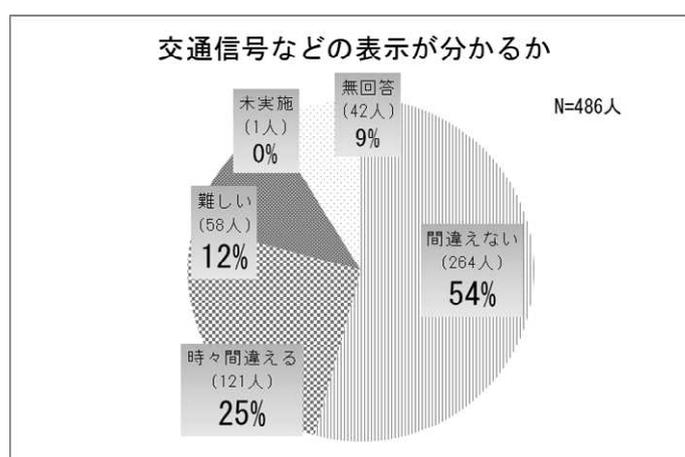


図.26 交通信号などの表示が分かるか

22) 「時計を見て生活時間を自分で管理できますか」

「正しく行動できる」という回答が 7割 323 人あり、時計は失語症の方にとって有効な情報手段となっているようだった。時間の管理を「時々忘れる」が 74 人 15%「難しい」が 45 人 9%であった。

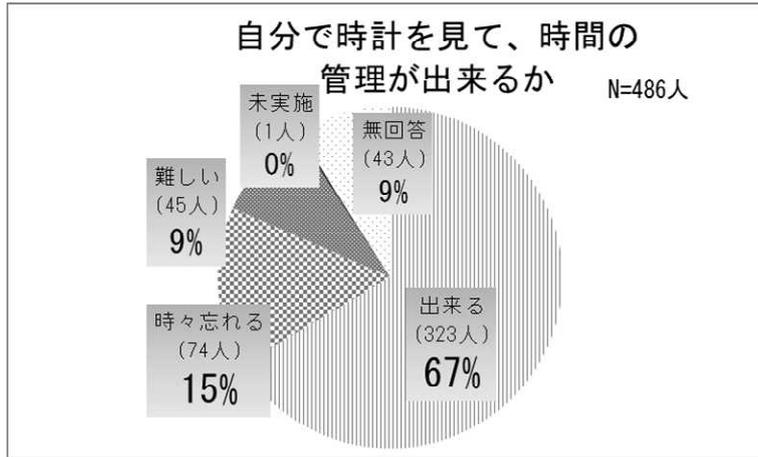


図.27 自分で時計を見て、時間の管理が出来るか

23) 「約束の時間を一人で守ることができますか」

「正しく行動できる」という回答が約半数 247 人、「家族が教える必要がある」が約 3 割 148 人、「難しい」が 1 割 50 人あり、約半数の人が自立して時間を守れることが分かった

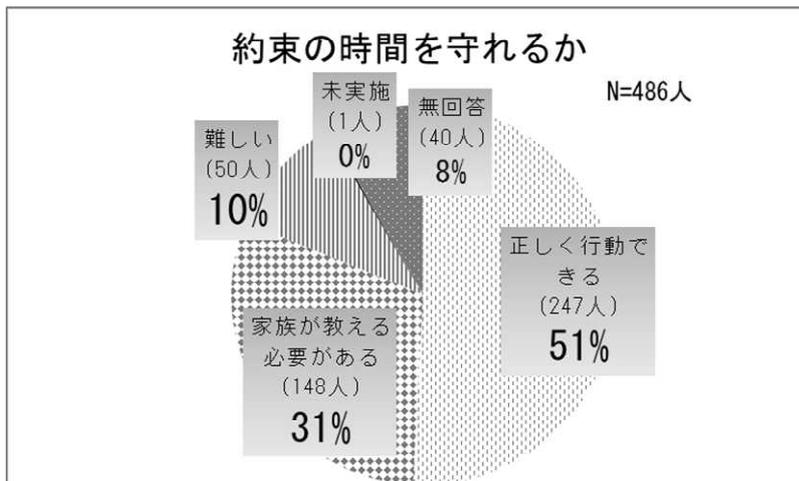


図.28 約束の時間を守れるか

<外出について>

25) -①「外出時、家族以外のガイドヘルパー等の支援を受けているか」

「全く受けていない」人が約 8 割 373 人と圧倒的に多く、外出時の付き添いはほとんど家族が行っているようであった。受けている人はわずか 40 人 8%しかいなかった。ガイドヘルパーへの要望が少なかった理由として、ガイドヘルパーが失語症者とのコミュニケーションに有効な方法を習得しておらず、失語症者の気持ちを察することが難しいため、本人の気持ちを察することのできる家族が同行して介助することが不可欠という失語症本人からの意見があり、失語症者へのガイドヘルパーは失語症者とのコミュニケーション技術を習得する必要がある、ということが分かった。

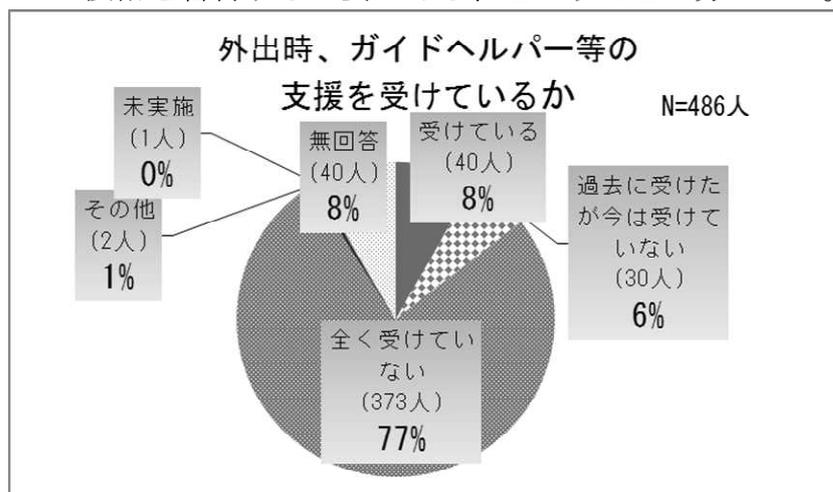


図.31 外出時、ガイドヘルパー等の支援を受けているか

25) -②「ガイドヘルパー等のサービスについて」

「あったほうが良い」という回答が 171 人 35%あったが、「特に必要ない」が 120 人 25%、「不要」が 127 人 26%と、必要性があるとする回答の割合が低かった。この背景として、上に述べたようにコミュニケーションが困難なためガイドヘルパーサービスの依頼をためらうという要素が存在することは忘れてはならない。

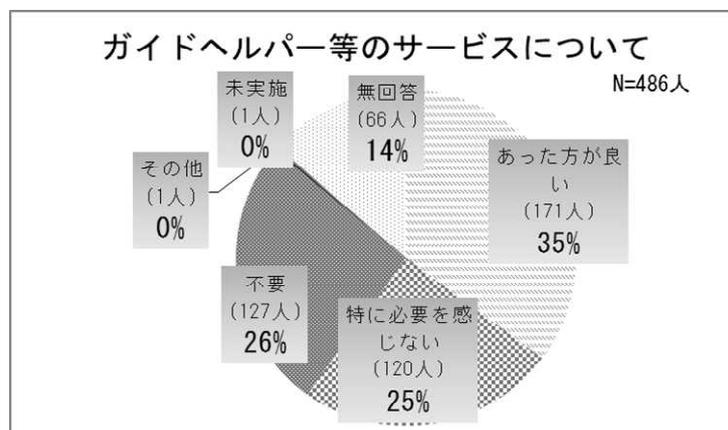


図.32 ガイドヘルパー等のサービスについて

<社会資源の利用について>

30) 「一人で市（区）役所に行って用事をする事が出来ますか」

261人 54%の人が「難しい」と回答した。無回答に加えて少数だが未実施（行ったことが無い）もあり、失語症になってから役所に行ったことが無い（家族に任せている）ことも推測された。

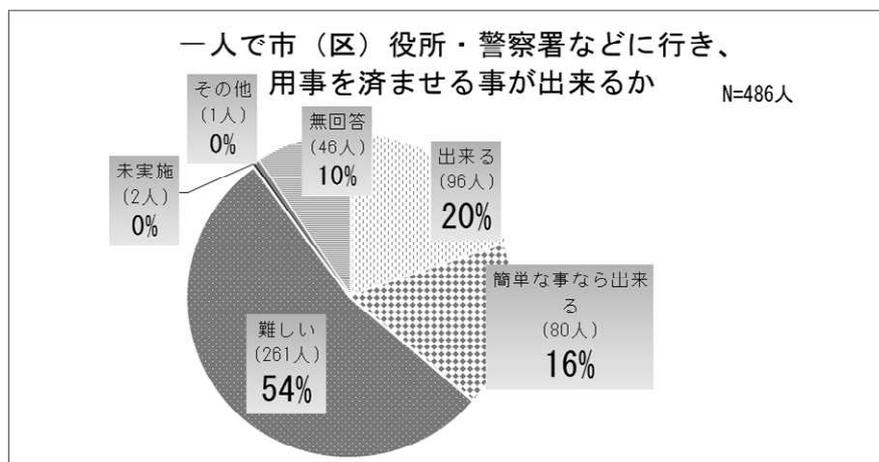


図.37 一人で市（区）役所・警察署などに行き、用事を済ませる事が出来るか

31) 「一人で銀行等の金融機関に行き、用事を済ませることが出来ますか」、金融機関利用は日常生活に不可欠であるが、「難しい」と回答した人が約6割 282人あった。「出来る」と「ATM だけ」を合わせても3割しかいなかった。失語症者はATM 利用も困難である。ATM 利用には文字などの視覚情報の操作の問題だけでなく、反応時間の問題、そして環境の問題（機種によって操作法が違う、ATM が少ないところでは、大勢の人が後ろに行列してしまい、プレッシャーとなる）がある。マヒのある失語症者では、文字認知に加えて片手での操作にとまどい、時間がかかると機械が受け付けなくなるなどの問題も生じる。失語症者が金融機関を円滑に利用するためには失語症を理解し、支援してくれる職員の存在が不可欠である。

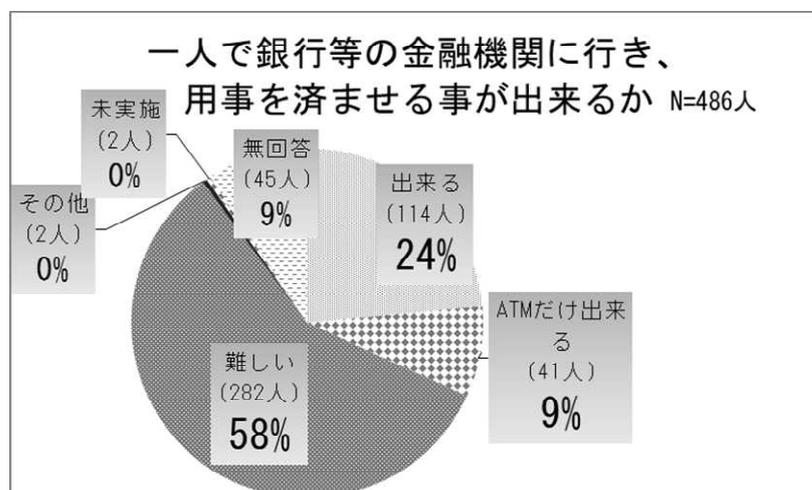


図.38 一人で銀行等の金融機関に行き、用事を済ませる事が出来るか

32) 「一人での買い物や飲食店での注文はどの程度できますか」

「難しい」と回答した人が172人35%あったが、「メモやメニューがあれば出来る」という人もほぼ同数あり、文字で示された物があると、買い物や飲食店利用の際に手助けとなることが、分かった。

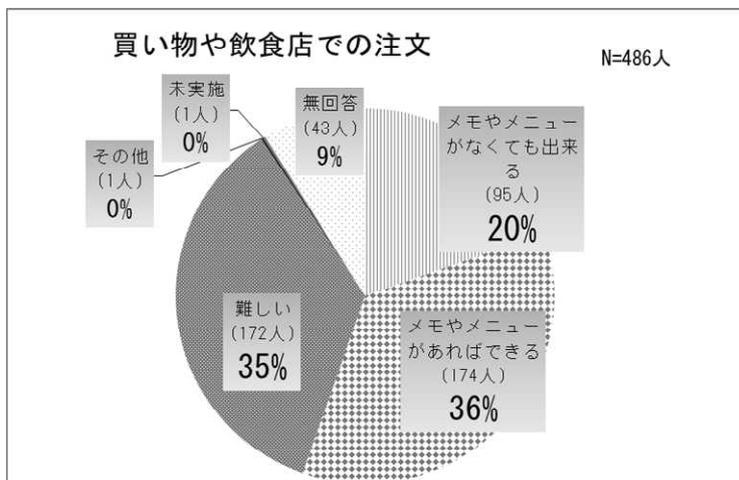


図.39 買い物や飲食店での注文

33) 「お釣りの計算が出来ますか」

154人32%の人が「難しい」と回答し、「自信がないので大きいお札を出してお釣りを貰う」という回答も102人21%あった。約5割の人が、買い物での支払いに困難を感じていることが分かった。

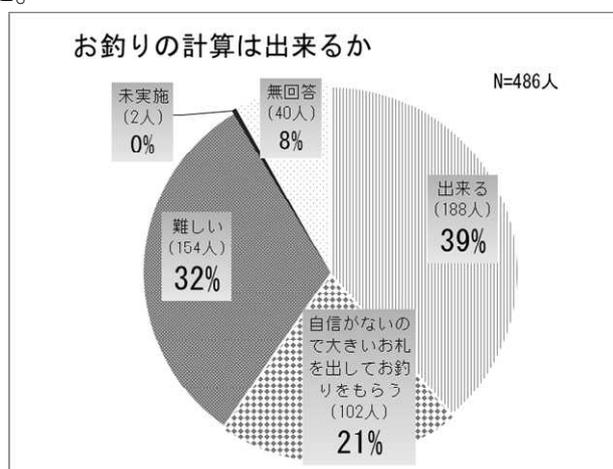


図.40 お釣りの計算は出来るか

37) 「一人で留守番をすることが出来ますか」

「(電話の応対も含めて) できる」と回答した人は 152 人 31%で、一人であることはできても、電話の応対が難しい方が 241 人 50%、全く一人でいられない人が 63 人 13%あり、失語症の方のご家族にとって本人を残しての外出が困難なことを示唆している。

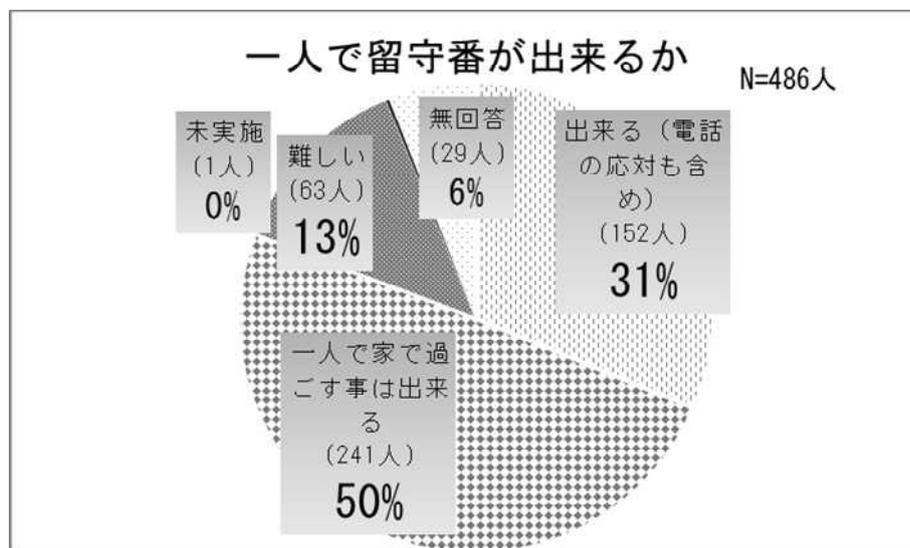


図.45 一人で留守番が出来るか

<医療機関受診と健康管理>

38) 「一人で診察を受けに病院に行けますか」

「難しい」が約半数 240 人あり、通院にも家族が付き添っている方が多かった。

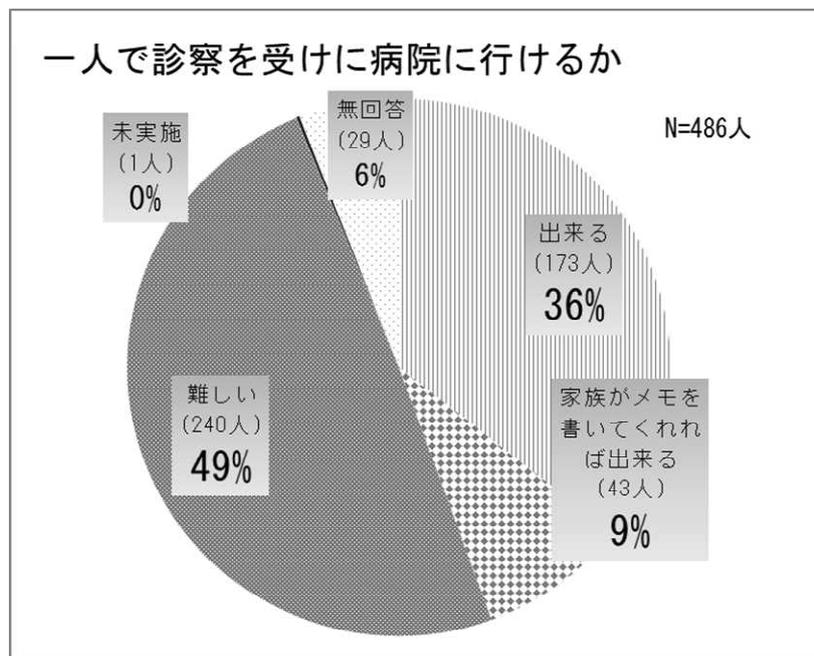


図.46 一人で診察を受けに病院に行けるか

2. 家族対象アンケート結果

< 家族の状況 >

1) 「年齢、性別、家族構成、扶養家族、失語症のある方から見た立場」

回答者の年齢は、60歳代が最多で197人46%、次いで70歳代125人29%、50歳代55人13%であった。性別は女性359人83%、男性72人17%であった。

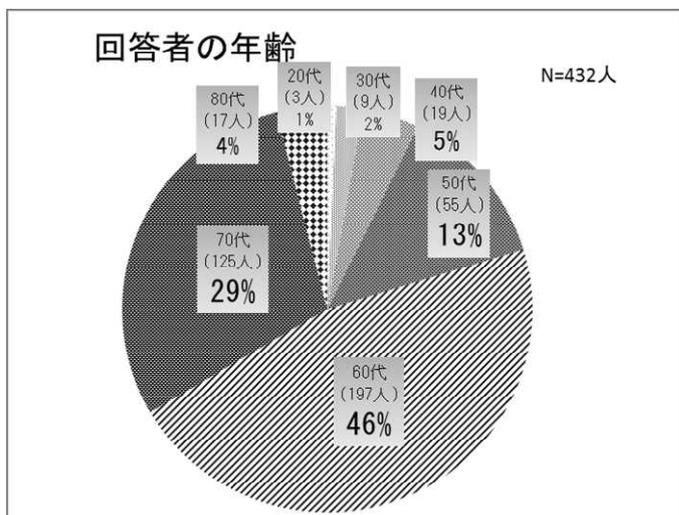


図.55 回答者の年齢

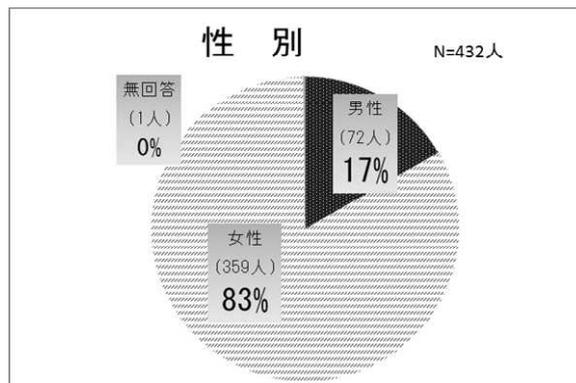


図.56 回答者の性別

家族構成は「失語症の人と二人暮らし」が229人53%、「子あるいは親と同居」187人43%であった。扶養家族は、「有る」と答えた人が148人34%あった。

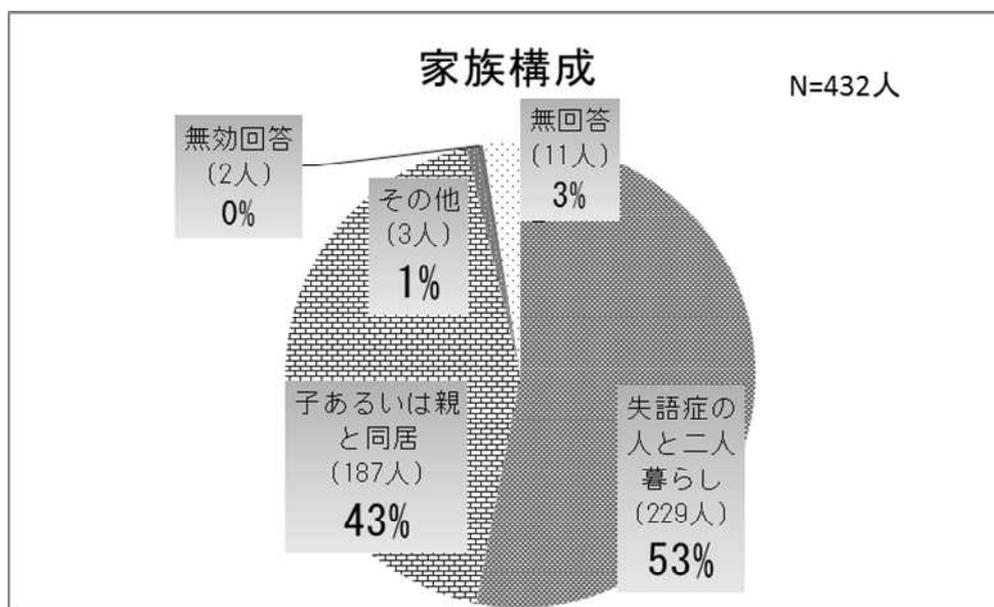


図.57 家族構成

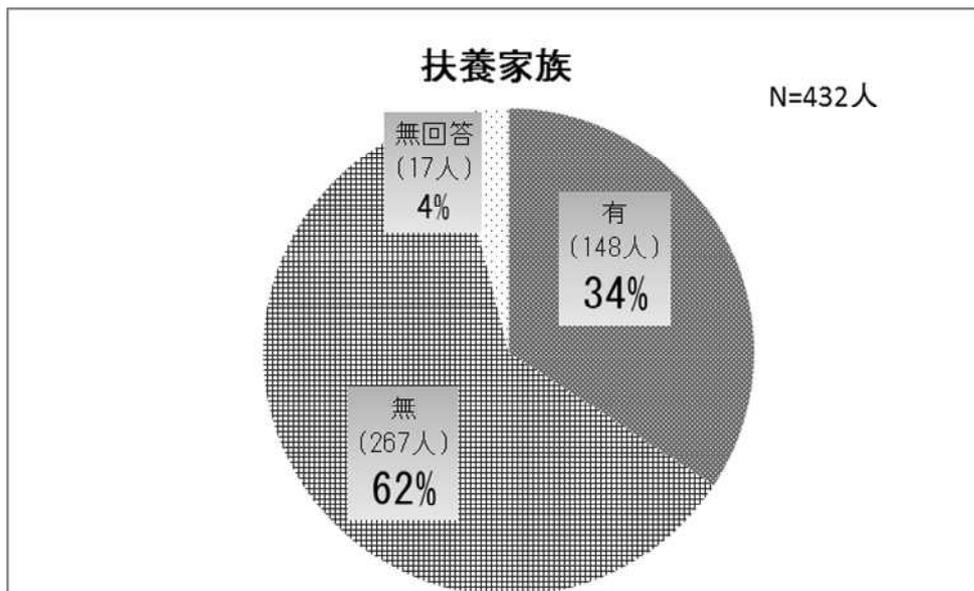


図.58 扶養家族

「失語症のある方から見たあなたの立場」は、「妻」が最も多く、314人73%、次いで「夫」48人11%、「親」42人10%となっていた。

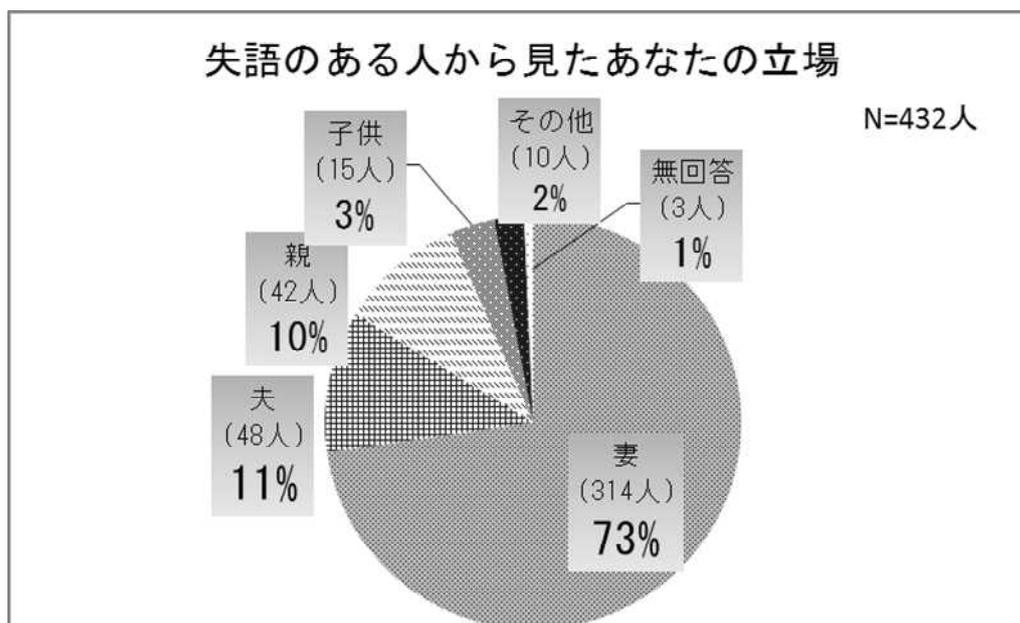


図.59 失語のある人から見たあなたの立場

8) 「ご家族としてはご本人のどのような状態にストレスを感じますか」

① 「ことばの状態」

「本人の思いを推測することが大変」が最も多く、247人 46%、「本人の体調を推測することが大変」という回答がそれに次いで 117人 21%となっており、意思の伝達のみならず、ことばの不自由さが体調管理にも影響を及ぼしていることが分かった。

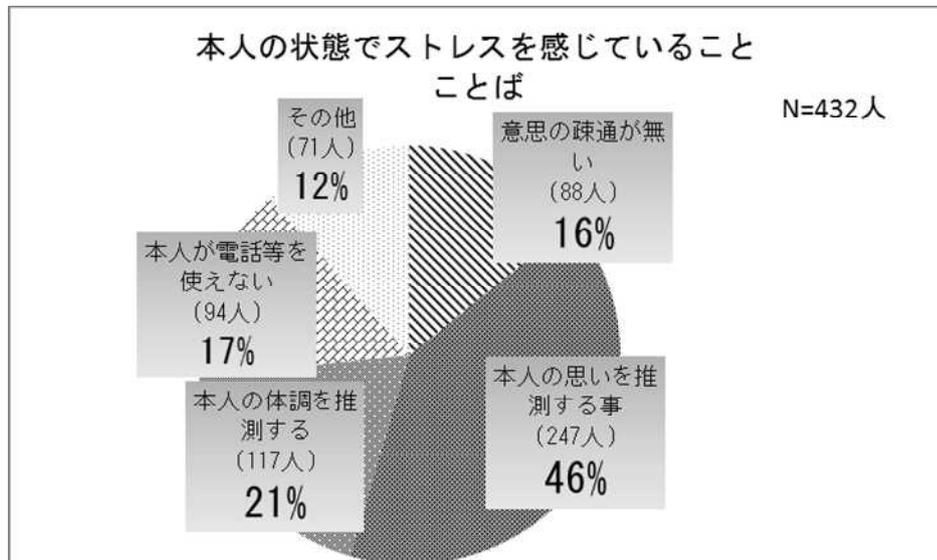


図.65 本人の状態にストレスを感じていること、ことばについて

② 「感情・認知面での問題」

「怒りっぽいこと」142人 33%、「意見を聞き入れない」104人 24%、「行動を理解できない」51人 12%、に加えて「暴力をふるう」という回答が10人 2%あり、感情や認知面（行動面も含む）の問題が家族関係に影響を及ぼしていることがわかった。

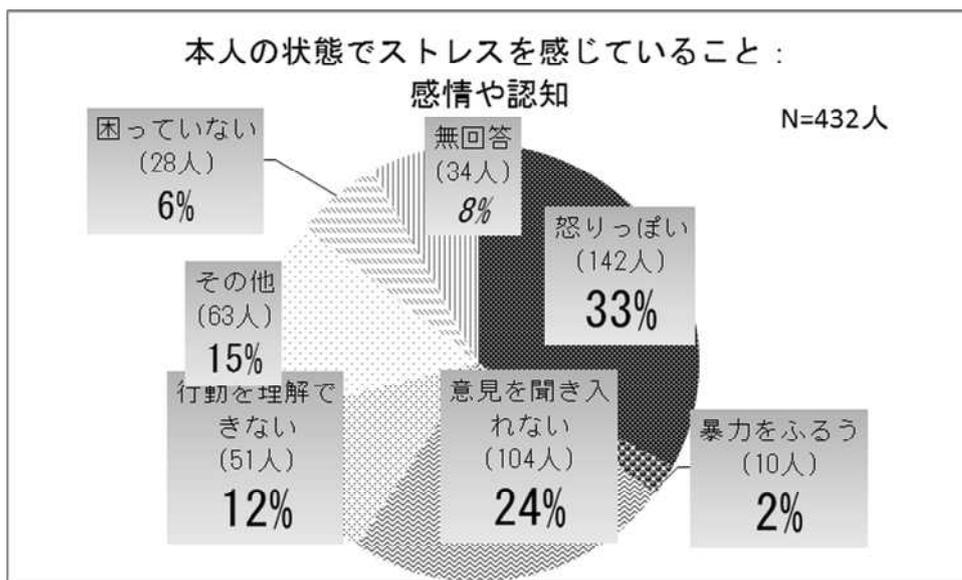


図.66 本人の状態にストレスを感じていること 感情や認知

う経験もある。病院の勝手な判断で言語のみの人は手帳が無いという現実がある。認定基準も 3 級と 4 級だけはおかしい。STの方がもっと上へ訴えて欲しい。言葉が出ないということがどんなに大変なのか本人が一番苦しんでいる。病院を退院する時、障害者の認定をしてもらえなかった。言語に関する障害認定をしてもらえない。失語症の認定等級を是正して欲しい。障害者手帳設定基準は余りにも失語症者の現状にそぐわない。失語症は咽頭の障害はなく脳の障害という認識を持ってほしい。障害者認定基準の改定をしていただき社会復帰をし、もっと頑張りたい。失語症の障害者認定基準は実情に合っていない。大変な思いで日々過ごしている。障害も 3 級で納得いかない。自分の思いが言葉が筆記で伝えられない障害は他人が思うより重い。失語症に対する障害等級認定の引き上げ必要。「精神障害手帳」では、偏見を招くので名称の変更を！！認定基準（年金手帳）は行政に相違があり画一的に平等に認定してもらいたい。障害者手帳は眼科の方しか認めてもらえず一人で外出は大変難しい。複雑な建物の中では迷子になり状況を理解できない。旅行ではホテルで自分の部屋に戻れなくなる。障害者手帳の認定基準の考慮をお願いしたい。失語症の人に対して言葉が話せないくらいにしか考えていない人が多い。失語症の認定基準を改定してほしい。障害者手帳認定基準の改定。障害者手帳は役所とケアマネさんから失語症だけの取得は 3 級が取れるかどうか分からないと言われた。1, 2 級なら色々支援はあるがそれ以下では手帳があるというだけと言われたが、仕事はもちろん車の運転免許の更新も駄目だった。障害者手帳認定基準の改定でもっといろいろな支援を安く受けられるようにしてほしい。高次脳機能障害など誰も解らない、解ろうとしない。医者も分かろうとしないので驚き、情けないし呆れる。障害者手帳認定の基準の改定を望みます。表向きには障害が無い様に見えるので苦労している。バスの運賃は失語症者本人のみ半額。一人で外出できず家族が同行する場合は家族運賃も半額が望ましい。見た目だけでは分からない失語症患者が障害者年金認定基準・障害者手帳認定基準の改定を強く要望します。現在障害認定は、手、足のみで受けていて失語症は加わっていないので認定基準の改定を望む。障害者手帳に身体と精神しかないので、脳障害の人達は、障害を理解してもらいにくい。あらたに別な手帳が出来ると良いと思う。言葉が出ないので、外出時も常に一緒に行く事が必要。それなりに等級を上げて欲しい。失語症を軽く見られがちで年金等級、公的支援、公共の場所などの使用など適用に当てはまらない。外から見てわからない障害は本当に大変。障害者手帳の等級をもっと上げていただきたい。

<介護保険について>

介護保険認定を受けるようになった。加齢に伴い、失語の方も進み衣、食、排尿便、入浴介護が多くなった。再認定でも失語の方は全く組み入れた認定ではない。本人の身体、精神状態、言語障害が非常に困っている。障害者認定とともに介護認定にもぜひ失語症を認定基準に加味する必要がある。

<障害者年金・医療費について>

厚生年金の身では生活に困るが、働く場もない。障害者年金の支給をお願いしたい。(同意見多数)
失語症者は就労が困難なのに失語症の場合障害者の認定基準が低すぎる。(同意見多数)貯金を取

り崩したりして生活をしているが公的補助も必要。障害者年金認定基準の改定は是非お願いしたい(同意見多数)。身体障害だけなら仕事に復帰できたが失語症のために退職せざるを得なかった。しかし障害者年金基準では失語症の為仕事に就くことはできず、経済的に困っている。心臓機能障害で1級を受けているので障害年金を受けているが失語症だけでは障害年金がない。軽度に見えても、会社への復帰は出来ず経済的に大変。障害者年金認定基準や、障害者手帳認定基準の改定をしてほしい。医療費を支援してほしい。障害年金はせめて減らないようにお願いしたい。(少しずつ、減少している)障害者年金を増やしてほしい。生活のできる金額ではない。障害者年金を受給しているが生活保護の健康な方たちの額と比べ余りに少ない。働くことが困難な失語の人への年金基準を改正して欲しい。発症時より現在までの医療費は相当な額だった。医療費が減額出来ればと思います。障害者年金が増えればと思います。子供の学費もあり又リハビリが継続して受けられればと思います。

本人の言いたい言葉をくみ取って代弁してくれる機器などの無償レンタル、年金・手帳の失語症に対する等級をもっと重く認定してほしい。年金による最低生活の保障が欲しい。49才で発症し、退職金等が無く経済的に大変。障害者年金の改定があればいい。国民年金生活で先の事を考えれば「お先真っ暗」状態。42歳で発病子供も3人「小学、中学、高校」の時でしたが、精神状態も普通ではなかった。頭痛、涙の流れない日が無かったが子供の為にも少しでも主人が良くなるのを祈るばかりで、蓄えもなく子供たちにも十分な事もしてやれずよくここまで来られたと思う。生活保護の話を知った時私も願いたい気持ちいっぱい。70才も近くなって少しでいいから余裕ある生活がしてみたい。若年者には先が長く生活面で心配。障害年金、手帳の改定を希望する。国民健康保険料の月々が高すぎる。障害者年金をいただいても、全く赤字。失語症があっても働けないのですから収入も考えて欲しい。障害者年金は受けていますが、会話が不可能も加算してほしい。更新の際、身体的に良くなったということで、障害者年金が打ち切られた。しかし社会への適応性に変化はない。異議申し立てをしたが認められなかった。今の認定基準は有る・無い、動く・動かない、話せる・話せない等の二者択一の感が強く高次脳機能障害も同様。社会生活適応性を考慮すべき。他の障害に対して、失語症は社会の認知度が低い。認定基準の改定を願っている。2種3級だがほとんど保障されていない。年齢が増すごとに身体が動かなくなる。色々な面でお金もかかるようになるが年金は増額されない。増やして欲しい。親が亡き後、生活していけるような年金制度にして欲しい。70才で発症したので障害者年金などなく患者の見守りが不可欠なので働きにも行けない。身体の障害年金はあるが失語症にはない。あった方がいい。厚生年金のほかに障害者年金を改定し、障害者(脳卒中者)には、助成するよう望む。障害者年金を上げて欲しい。障害者手当を2倍に上げて欲しい。障害者年金の中に失語症手当を取り入れて欲しい。車の運転が出来ない障害者はタクシーを利用しているので行動範囲に限られる。手当を増して安心してリハビリが出来ることを願っている。障害者(言語障害)の等級が別にあるのでしょうか。(知りませんでした。)あるなら障害者年金認定基準の改定をお願いします。58歳で病気になる個人年金と障害者年金で生活出来たが若い人は途方に暮れる。生活出来る保障が欲しい。障

害者年金認定基準の改定を少しでも多くの支援をもらい経済的な負担を軽くしたい。失語症が有る人の殆どが身体障害を持っていて就労は不可能。生活保障の為に障害年金認定の基準は見直しが必要。障害年金での生活は大変。介護保険料もだんだん高くなり、健常者と障害者が一緒というのは疑問。障害者年金がどんどん下がっていて生活出来ない。就労困難な失語症者の生活を支える年金の等級是正と年金額の引き上げを望みます。失語症患者を抱える家族への経済保障（特に患者が主たる生計維持者だった場合）失語症患者の介護をする者（親族）への公的援助を望む。ホテルに宿泊し個人的にリハビリをしてくれるところに半年通った時期もあった（1カ月、100万以上の経費がかかった）私が亡き後のためできるだけ貯金をしなければと思う。生活保障は、障害者にとって生きていく為の命綱ですから不自由のない生活（二重苦にならぬよう）の為に確保すべき。障害年金の申請が複雑過ぎる。介護保険等の様になればいい。重度の失語症ですが障害者手帳の認定が2種4級で交通費が本人だけが半額ということに納得出来ない。一人での外出は難しく付き添ってしか行動できないのに、本人の切符（子供用、障害者用）をわざわざ自動販売機で買い付き添い分はパスモで通っている現状。半額用のスイカ、パスモが欲しい。1級から医療費の援助・交通割引の1種認定等。失語症者が生き生きと暮らせる地域社会づくりをして欲しい。障害者年金の基準も広く月額増やしてもらいたい。

<就労支援について>

失語症の人の就労は大変厳しい。体は元のようになっても意思の疎通が難しいため、現実的に雇用されることは少ない。現役世代の本人に対する就労の支援。特に失語症者は職場でもコミュニケーションがとりにくく、同僚とのもめ事など困っていることを相談できない。47歳の時失語症となり障害年金は受給しているがそれより仕事をする場が欲しかった。障害者の枠で仕事をしていて来年で定年。仕事をする場が欲しかった。若い方達の為には就労を兼ねた施設が沢山必要。仕事復帰、社会復帰に向けてのリハビリの充実を望みます。

<経済的支援について>

国の支援としてもっと生活保障をお願いします。失語症の家族が子育て中の人等の場合は、生活保障をしてほしい。介護保険の点数以内でヘルパーを利用しているが使いすぎたら、1回1万円（1時間）で大変驚いた。追加料金が高すぎる。本人の介護、支援の為に結局仕事を辞めざるを得なくなった。もっと支援があると良い。仕事がなかなか見つからないので生活も大変。収入が0で支援が欲しい。収入も年金が僅かで大変。昼間は娘に介護を頼めても、夜中までは頼めない。寝る前の着替えから朝の着替えまでが一人では不可能なため夜から朝までのナイトサービスがあったら良い。一泊二日でショートステイに預けなくてもよい。ショートステイは二日分料金が必要で安易に利用できない。ずっと使用する道具、例えば電動いす、電動ベッドはレンタルではなく、1割負担の購入が出来ると良い。高速料金のETC割引も本人が運転しないと認められないが、家族が運転して本人が同乗している場合もETC割引をしてほしい。生活保障として県営・市営の住宅を希望したが家を持っているので当てはまりません、持っているものを処分した段階で。夫は生活介護を受けるに当たって知的障害施設がやっているレストランを紹介された。経済的支援